

市長室：対話の記録

要旨

開催内容の公開

対話の内容

【市長あいさつ】

【意見交換】

- ①嵐山小中学校の統廃合について
- ②優良田園住宅について
- ③都市と農村を結ぶ宿泊施設等の建設について
- ④太陽光発電施設の建設について
- ⑤廃棄物処分場について
- ⑥通学区域外の学校への通学について
- ⑦高齢者が集う憩いの施設をつくらしてほしい
- ⑧農業者以外の方が作った作物を地域で販売等を行うことができる仕組みづくりについて
- ⑨高齢者のための菜園付きマンションの建設について
- ⑩若い世代を地域に呼び込むための方策を考えていきたい
- ⑪シカやキツネによる被害対策について
- ⑫ごみの運搬ルートについて
- ⑬ごみの有料化で得た収入の使い途について
- ⑭ごみステーションの設置場所について
- ⑮農業者に対する助成について
- ⑯広報誌の表紙について
- ⑰動物愛護センターについて
- ⑱花いっぱい運動に対する補助金の廃止について

【市長終わりのあいさつ】

第47回目となる今回は、市内の江丹別・嵐山地区にお住まいの方をはじめとする市民の皆さんと懇談しました。

45の方が参加し、地域特有の課題や、市政やまちづくりに対する意見など、活発な意見交換が行なわれました。



日時	平成22年1月20日(水) 午前10時00分～午前11時30分
場所	旭川市嵐山中央会館 第1集会室(江丹別町嵐山)
出席者	・西川市長 ・市民(45人)

対話の内容

参加者から寄せられた意見や提言・要望と市長のあいさつ・コメント等、対話集会の内容を要約したものを掲載します。

※参加者はアルファベットで表しています。

同じアルファベットの表記は同一人であることを示しています。

【市長あいさつ】

今日は江丹別と嵐山地区の皆さま方を中心に大勢の方々にお集まりをいただき、ありがとうございます。前回、平成19年12月8日にこちらで対話集会を開催をさせていただいてから、2年と少し経ちますが、またこちらにお伺いしてこのような機会をつくることができ、市民委員会の皆さまをはじめ、ご案内にご協力をいただいた皆さま方に感謝を申し上げたいと思いますし、お茶までご用意していただきまして、ありがとうございます。

江丹別、嵐山地区の皆さんには、これまで本当に長い間いろいろな部分でお世話になり、またご迷惑などもお掛けしながら、まちづくりを進めさせていただいてきているところでありますが、今日はまた地域のいろいろな現状等についてお聞かせいただきたいと思っています。

今日、初めて参加されたという方もいらっしゃるかもしれませんが、これまで地域の皆さんと27回の対話集会を開催させていただいております。そのほかに障害者の皆さんや保育所の関係の皆さんなど、様々な団体の方々との対話集会も19回開催しており、今日が47回目になり

ます。市長に就任してから3年経ちますが、その間、貴重なご意見やご提言をいただいております。ぜひ今後もこの取組は続けていきたいと思っています。

こちらの地域は、サイクリングロードがあったりですか、また、すぐ近くにはパークランド嵐山という大きなパークゴルフ場もございます。また、名産物特産物としては、江丹別のそばがございまして、全国的にも大変評判の有名なそばとして、私どもの自慢でもあります。前回、こちらでの対話集会の時に、江丹別そばを旭川空港の売店で販売してほしいというお話をいただきました。空港にはいくつかお店が入っており、その中でこれまで丸井さんで営業していた店舗を西武さんが引き継いで、地域の物産協会の皆さんと一緒に新しく売店を展開してもらっているのですが、こちらにお願いしまして、この江丹別そばを取り扱ってもらえるというお話をいただいております。こちらでも地域の江丹別そばを多くの方にPRしていただいて、また買っていただけたらなと思っています。

また、地域以外の部分についてもいろいろなお提言をいただいております。皆さんのお手元にお配りしている資料にも載せてありますが、アパートマンションの方々のごみ出しのマナーがあまりよろしくないということで、アパート、マンションを造るときに、専用のごみステーションを設置してもらいたいというご意見がいろいろな地域でありまして、これについては今進めているところでございます。

そのほかに子育てという部分で、第二庁舎内にこども通園センターという、発達障害のある子どもさんが通うところがあるのですが、その子どもの弟さんや妹さんを預かってもらえる場所をつくってほしいというご意見があり、託児施設を同じ第二庁舎内に開設させていただきました。

また、道立特別支援学校高等部、今まで高等養護学校と言われおりましたが、障害のある方が中等部を卒業して進学するところなのですが、残念ながら旭川市内にはその高等部がなく、美深や雨竜、小平町などで多くの旭川市民の子どもさんが寄宿舎生活を送っているという現状があります。そのため、この道立特別支援学校高等部を旭川市内に設置してほしいという障害者団体の皆さんの要望がありまして、誘致期成会を設立して、道の教育委員会と今具体的に話を進めているところです。一日も早くこの高等部が旭川市内に設置されるように、私も期成会の会長として取組を進めております。

江丹別、嵐山地域については、道道幌加内線の歩道整備についての要望を前回いただいておりました。道道でありますので直接的には北海道が事業主になるわけですが、平成19年9月10日に江丹別市民委員会の皆さんと私ども市の土木部で、土木現業所に対して要望書を提出しています。そのほかに市の単独要望などでもこの道路の整備要望を国や道に対しても要望してきているところでありますが、ご存知のように、非常に道も財政難ということで、新規事業については難しいというお話があります。しかしながら、引き続き地域の要望として北海道に対し要望を行っていきたく考えております。

また、昨年、移住生活体験住宅ということで、ログハウス風の建物を3棟、建設させていただき、現在、2棟に入居されているようです。定年退職後などに旭川に戻ってきて仕事をしたいという方が、一時的にそこに暮らしていただいて、いろいろと地域を見ていただいて、移住を体験する住宅を共和の地域に3棟造らせていただいております。

他にも処分場の問題ですとか、様々な課題等があるかと思っております。引き続きこの後、皆さんからお話を聞かせていただければと思います。

道路や橋等についての要望は市内全域から非常にたくさんいただいておりますが、財政状況との兼ね合いで、中期的・長期的な視点から計画に盛り込んでいかなければいけないという部分もありますが、緊急また安全という部分については、許す限り最大限、早急という思いで取組を進めていきたいと考えております。



また、この機会に少しPRさせていただきたいのですが、今年は旭川の開村 120 年という年になります。120 年前、明治 23 年に旭川村、永山村、神居村の3村が置かれ、それから 120 年が経ち、今、ひとつになっております。今年の秋、ちょうど収穫の時期9月、10月を予定しておりますが、私どもの地域の基幹産業のひとつであります農業、それに関連する食品関係の「食」というテーマで駅前の中島公園、中心市街地から常盤公園にかけてを会場にしてのイベントを今準備しているところです。江丹別そばもその会場で、多くの方に食べていただけたらなと思っております。また一過性のイベントに終わるのではなくて、これをひとつの契機にして、道外の多くの方に旭川にはこんなに素晴らしい食べ物があるんだ、道北地域にはこんなに素晴らしい物があるんだということを認識していただいて、今後の産業の発展につなげていくことができるようなきっかけにできればと考えております。また地域の方々にもいろいろとご相談させていただくことがあるかと思いますが、その際にはよろしくお願ひいたします。このイベントにつきましては、ぜひ市民の皆さんと一緒に盛り上げていきたいと、そのように思っているところでございます。

昨年は、丸井今井さんの閉店や新型インフルエンザの大流行があったり、また国では、衆議院の総選挙で、戦後初めての政権交代が起きました。今、まだ国の予算が最終的には決まっておりますが、予想としては地方交付税が1兆1千億円増額と聞いており、旭川市においても6年ぶりに地方交付税が増加に転じるという予想を立てています。若干ですが、いろいろな部分で地方の裁量が増えてくると期待していますが、それと同時に今まで国からの補助金というかたちで来ていたものが、交付税化されるというかたちの流れがこれからどんどん進んでいくと聞いています。例えば、文部科学省の予算を使って建物をつくった場合、学校教育関係以外にはその建物を利用してはならないですとか、また例えば、道路をつくる時には、国の基準に乗っ取って道路をつくらなければいけないですとか、いろいろな縛りがあります。そういう規制を極力撤廃して、自由度の高いかたちで地方に交付して、地方主権、地方分権をさらに進めていこうという動きが本格化しつつあります。そのような状況の中、私どもは旭川というまちを、どういうまちづくりをしていくのか知恵をしっかりとしぼって、それを国に対して要望を行い、国から交付金をもらうというような流れが出てくるわけでありますから、頑張る自治体とそうでない自治体との差が出てくるということもあるのではないかと考えております。私どももそういった流れについて、しっかりと情報収集しながら、地域の未来のために知恵をしぼって頑張ってきております。旭川のまちづくりの主役は市民の皆さんでありますので、市民の皆さんのまちづくりの将来に対する思いが、少しでも多く反映をさせていただくことができるように、私どもも頑張っていきたいと考えております。

冒頭に若干、PRもかねて私から話をさせていただきましたが、このあと約1時間、ぜひ皆さま方からいろいろなお話をきかせていただければ思っております。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

【意見交換】

①嵐山小中学校の統廃合について

参加者A

私たち家族は、子どもの教育のために市内から嵐山に移住してきました。江丹別や嵐山は、地域をあげて子どもを育成している大変すばらしいところだと思いますが、その拠点である大切な学校がなくなると聞いた時には本当に驚きました。市長もお忙しいとは思いますが、現場で頑張っている先生方、真剣に子育てをしている親たちの話を聞いてください。

市長

いろいろな部分で話し合いをさせていただいて、皆さんの思いなどもしっかりと聞かせていただきながら、地域づくりを進めていかなければいけないと思っております。教育委員会が中心になって地元の皆さんと話し合いをしていると思っておりますが、私に直接ということであれば、皆さんからお話しいただければ、顔を出させていただきたいと思っております。

②優良田園住宅について

参加者B

嵐山の優良田園菜園住宅についてですが、11区画中、まだ1棟しか建っていません。区画整理などして、有効に活用していただきたいと思います。

市長

優良田園住宅については、残念ながらまだ1棟しか建っていません。いろいろな法律の規制があり、この規制をどうクリアしていくことができるかという課題もありますが、何とかここに早く住宅が建つように研究を進めていきたいと考えています。

③都市と農村を結ぶ宿泊施設等の建設について

参加者B

本州の方では、農村地域に宿泊施設等をつくり、様々な活用をしているようです。この地域にも農村と都市を結ぶいろいろな施設を造っていただきたいと思います。

④太陽光発電施設の建設について

参加者B

国では太陽光発電なども考えて、地域の何か所かに太陽光パネルを設置するという考えがあるようですが、その際にはこの広大な嵐山地域の土地を使ってもらいたいと思います。

市長

太陽光発電については、今後、国からもいろいろな新しい事業を提案してもらえるのではないかと考えていますが、市としましては昨年から個人住宅の太陽光発電システムの設置に対する助成をさせていただいているところです。昨年は65戸くらいだったと思いますが、新年度はそれを拡充して、100戸程度の個人住宅での設置に対して助成させていただこうと考えています。また、これは太陽光パネルのPRも兼ねているのですが、市民文化会館や旭山動物園、また学校にも設置できないかなどいろいろと研究しているところです。今後、国の事業なども考えながら、この地域において何かできるものはないかなど、検討材料にさせていただきたいと思っています。

⑤廃棄物処分場について

参加者C

廃棄物処分場について、地域との協定が平成30年で切れます。過去に協定が切れる間際になってから、再度、江丹別に処分場を建設させてほしいとお願いされて、地域が大混乱したことがありましたので、今度は期限間際でなく早め早めにいろいろと考えていただきたいと思います。また、次期廃棄物処分場の建設場所については、旭川以外の場所で考えてもらいたいと思います。

参加者G

現在の廃棄物処分場が平成30年までということですから、あと5、6年しかありません。今からこの処分場をどうしなければならないか真剣に考えた方がいいと思います。

市長

廃棄物処分場については、何処にするかなど、現時点でまだ何も話しをしておりませんが、時期を逸することなく計画を考えていかなければいけないと思っています。約35万人の方が毎日大量のごみを出しているわけですから、どこかには処分場を造らなくてはなりません。近隣の町にごみを持っていくわけにはいきませんので、旭川のごみは市内で処分しなければならないと思っています。今後、地域等も含めて検討していかなければなりません。

⑥通学区域外の学校への通学について

参加者C

江丹別地域では子どもが大変少なくなっており、小中学校の統廃合の話もありますが、例えば江丹別の子どもが街中の学校に通えたり、逆に街中の子どもが、環境の良い江丹別の学校に通えるようにしてはどうでしょうか。

⑦高齢者が集う憩いの施設をつくってほしい

参加者C

江丹別地区に高齢者のための憩いの施設をつくることを考えていただけないかなと思います。長年江丹別や嵐山に住み慣れた方々がそこで楽しく共同生活できれば長生きすることができると思います。

市長

お年寄りの憩い場については、今後の地域の課題として、受け取らせていただき、またいろいろと検討していきたいと思っています。

⑧農業者以外の方が作った作物を地域で販売等を行うことができる仕組みづくりについて

参加者D

嵐山のパークゴルフ場で、農家が作った野菜や果物を販売しており、大変好評です。そこで、農業者ではない菜園付き住宅に住んでいる方が、その菜園で作った野菜や漬け物、ジュースなどの加工品を地域で販売できるような仕組みがあるといいと思います。保健所の許可も必要だったり、農業者でなければ販売することができなかったり、加工場も利用できないなど、いろいろな法の規制があるでしょうが、夏に作ったものを売って、冬に生活ができるぐらいの収入を得ることができる仕組みがあれば、この地域でゆっくりと時間を過ごす生活をしたいという人たちが増えるのではないかと思います。

市長

農業の法律を詳しく調べていないものですから、どのような課題や障害があるのか把握してはおりませんが、そういった地域のお話があったということで、後日いろいろと検討させていただきたいと思っています。

⑨高齢者のための菜園付きマンションの建設について

参加者E

高齢者が大自然の中で、土とともに生活できるような高齢者用の菜園付きマンションを建てて、高齢者が暮らしやすい地域にしてほしいと思いますし、そのような施策からこの地域を振興させることができないかと思っています。

市長

高齢者の皆さんが暮らしやすいまちづくりについて、私どもも、そういうまちづくりをこれから全体的に進めていきたいと考えていますので、またぜひ一緒に頑張らせていただきたいと思います。建物については、いろいろなご提案があろうかと思いますが、この地域の振興という中で、具体的にどういうものかということ、引き続き地域の皆さんと意見交換をさせていただきたいと思っています。

⑩若い世代を地域に呼び込むための方策を考えていきたい

参加者E

江丹別の保育所は今年新たに入ってくる子どもがいません。当分の間、保育所は休園します。ですから、何とか若い世代の人たちを、この地域に呼び込む方法を皆で考えていきたいと思っています。

⑪シカやキツネによる被害対策について

参加者F

廃棄物処分場ができてから、畑がシカやキツネに荒らされて困っています。市ではカラスによる被害対策はできるが、シカやキツネは対象外ということで、網ひとつ買ってられません。

市長

本当にいつもご迷惑をおかけしております。処分場の職員からもいろいろいつもお話しさせていただいていると思いますが、私どももまたいろいろと皆さんがこの地区で安心して暮らしていくことできるように、ご相談に乗らせてもらえたらと思っています。

⑫ごみの運搬ルートについて

参加者G

ごみの運搬車両が嵐山小中学校の前を通りますが、街中を通らないで迂回して処分場に行く方法を考えた方がいいと思います。

環境部長

道路については、じんかい処理車、収集車などが頻繁に通りますので、これまでも市民の皆さん方から交通安全の問題もかねていろいろとお話しをうかがっています。この処分場にいたるまでの道路の中でも、例えば芳野1号線という道路について、鷹栖・江丹別線を補完するような道路としての位置付けが必要ということで整備を進めておりますし、ごみの処理という切り口ばかりではなく、地域にお住まいの皆さん方の生活への影響や、子どもたちの安全確保という面から、そういう迂回ルートがあるということ、関係するところに一生懸命伝えていくことを考えていきたいと思っています。

⑬ごみの有料化で得た収入の使い途について

参加者G

ごみの有料化により、いくら収入があっても、その収入を何に使っているか教えてください。

環境部長

ごみ袋が有料化になってからのお金の使い途については、非常に大事なことであります。ごみ袋がいくら売れて、それによって得た収入を、祝日収集に要する経費や生ごみを堆肥化する機器の購入に対して助成する費用に使うなど、そのような情報をより市民の皆さんに分かりやすいように、今後も工夫していきたいと考えています。

⑭ごみステーションの設置場所について

参加者G

市内のごみステーションは、100メートル離れたところに1か所あったり、10メートル離れた所にもあったりと、いろいろですので設置場所を1度見直すべきだと思います。

環境部長

ごみステーションの設置場所については、市内全体で見ると一様ではありません。ごみがあふれてしまっているステーションは、ごみの収集に支障がありますので、30戸ぐらいに1個のステーションがあることが一番効率的だと考えていますが、ごみステーションの設置場所については各地域でいろいろな事情がありますので、個別にお話しをさせていただいて、設置場所について管理したいと考えております。

⑮農業者に対する助成について

参加者G

農家の人が一番困ってるのは、肥料代と農機の燃料代、またその農機の購入代金だと思います。国の援助などが必要だと思いますが、まず肥料を農家の人たちが力を合わせて、自分たちで肥料をつくって、自分たちでその飼料を使うようにしたらいいのではないかと思います。また、農業や漁業で使う燃料代は 20%の関税を撤廃してもらうべきです。そして農業用の機械を購入する時は、行政が補助する制度を設けるべきだと思います。

⑯広報誌の表紙について

参加者G

広報誌1月号の表紙に、成人の日のきれいな着物を着た女性の写真が載っていますが、この不景気の最中、このようなきれいな着物を広報誌に載せることは不適切だと思います。広報誌は人に感動と希望を与えるものなので、もう少し考えるべきだと思います。

⑰動物愛護センターについて

参加者H

動物愛護センターについて、現時点で考えている規模と建設予定地を教えてくださいたいと思います。嵐山地域には犬抑留所がありますが、築後約 40 年が経っており、撤去してほしいと何度か要望書が提出されていると思います。そこで新しい愛護センターを嵐山地区に持ってきてはどうでしょうか。地元の人には本当に歓迎すると思います。

市長

動物愛護センターについては、これからパブリックコメントで、市民の皆さんからいろいろご意見を伺うこととなっています。それを踏まえた上で、最終的に判断していくこととなりますが、少しでも早く新しい愛護センターをつくりたいと思っています。

この愛護センターの最大の目的は、嵐山の抑留所に年間数百頭持ち込まれ殺処分されている犬や猫の数を減らすことです。そのため市民の皆さんに、一度動物を飼ったら死ぬまで絶対に面倒をみななければいけないということを啓発していく施設にしていきたいということ、皆さんに気軽にセンターに来ていただいて、処分される前に引き取ってもらえるような施設にしていきたいと考えています。また、今、非常に劣悪な環境に押し込まれ、病気になっている犬や猫もたくさんいますので、病気の治療ができるスペースを設けることや、もう少し広い所で過ごせるように、施設の規模や場所などを考えていきたいと思っています。

嵐山の抑留所については本当に長い間、地域の皆さんにご迷惑をおかけしたと思います。この場をお借りして感謝を申し上げたいと思います。

⑱花いっぱい運動に対する補助金の廃止について

参加者H

花いっぱい運動に対する補助金が平成 22 年度に廃止になると聞きました。この地域は処分場に通うトラックが非常に多いので、市からの補助金をいただいて、道路に花を植えています。トラックの運転手も花を見て気分が良くなると思います。花いっぱい運動はなくなるかもしれませんが、別な方法で何とか継続できるようにしていただきたいと思っています。

市長

花いっぱい運動については、何か方法がないか考えてみます。

【市長終わりのあいさつ】

今日は地域の様々な課題についての現状やこれまでの経緯、今後についてのいろいろな不安や思いなどについてお聞かせいただきました。主に地域の活性化とごみの処分場の問題についてのお話がありました。今日いただいたご意見をしっかりと受け止めて、今後も地域の皆さんといろいろとお話し合いをしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今日は本当にこのように大勢の皆さんにお集まりをいただきましてありがとうございます。今日は久しぶりに暖かい日で、昼間はプラスになるということです。もしかしたら雨が降るかもしれ

ませんが、天気図を見るとまた寒冷前線が近づいてきてますので、明日以降、また急に寒気が入ってくるのかもしれない。どうぞ皆さん、体調を崩されませんように、風邪などひかれませんように、十分お気を付けになって下さい。

簡単ですけどもお礼のごあいさつに代えさせていただきたいと思います。今日はどうも本当にありがとうございました。